

国民皆医療保障制度の更なる強化を見据えて：プロジェクト第 2 フェーズへの期待

(医療保障庁 事業局局長 Serigne DIOUF 氏)

ドレール CMU プロジェクトではこの 4 年を通して多岐に渡る研修や機材供与が行われ、とりわけ保健共済組合 (MS) の能力強化に大きな成果を残してきました。研修は、のべ 1,040 名の MS スタッフが受講、保険管理事務や MS 加入者促進のためのコミュニケーション活動にかかる能力の強化に資する支援でした。また、機材供与としてはラップトップ PC や Wi-Fi モデムなどの情報処理用機器、事務所家具などが、プロジェクト対象県であるンブル県、クンペントウム県、ンバケ県の計 69MS に配備されました。

こうした制度運用レベルに対する介入に加えて、プロジェクトは医療保障庁に対しても、戦略的な介入を実現してきました。例えば、これまでに、MS 運営のための事務・財務管理ガイドラインの策定・配布、医療保障統合管理情報システム (SIGICMU) にかかる研修の実施とプロジェクト対象 3 県の保健共済組合、医療機関に対する関連プラットフォームの実装支援、診療報酬請求およびその医療審査など一連の手続きに関する医療保障庁関係者の能力強化、ガイドラインの策定支援などが挙げられます。

またプロジェクトにおいて、医療保障庁関係者を対象に日本への訪問研修が企画・実施されました。この研修では日本の公的医療保険制度の歴史的変遷や医療供給体制にかかる理解を深めると同時に、診療報酬請求・審査・支払体制やその仕組み、国民皆保険の展開についての日本の経験と教訓を学びました。この経験・教訓は医療保障庁全体にも共有され、セネガルの国民皆医療保障 (CMU) プログラムをより効率的、効果的に拡充していく上での新たな戦略立案に大きく寄与しました。

しかし、こういった技術的介入を経てもなお、プロジェクト対象地域においてはこの国にとって、CMU 制度を支える MS 組織の振興は、大きな挑戦であり続けています。この挑戦の根幹を成すトピックには、①MS 組織の専門化 (プロフェッショナル化)、②MS による保障の広域適用 (ポータビリティ)、③MS 加入促進のための家庭訪問や集会等のコミュニケーション活動の強化、④リスク管理強化のための MS 組織の県レベルでの統合・再編、⑤コミュニティ健康保険制度への地域行政当局の関与強化および、⑥管理システムのデジタル化などが挙げられます。



Serigne DIOUF 氏
医療保障庁 事業局局長

医療保障庁としてもこうした目標を追及する上で、各関係者の能力強化は引き続き注視すべきことと捉えています。喫緊に強化すべき分野としては、①医療・社会保障にかかる財政確保、②医療保障制度、③モニタリング評価が挙げられます。また、資源管理やリーダーシップ強化、アドボカシーやソーシャルマーケティングなど CMU 制度拡充を促す手法など、分野横断的な課題も、医療保障庁職員にとって重要です。

本プロジェクト第 2 フェーズでは、医療保障庁の目指す新たな方向性に則り、第 1 フェーズの成果を他県に拡充していくことになります。加えて、家族保障給付金 (BSF) 受給者や機会均等カード (CEC) 保有者の MS 加入や医療サービス提供を効果的に促しつつ、MS の一般受益者増加にかかる活動を、プロジェクトを通して進めていきたいと考えています。そのためには、①SIGICMU の他県への実装支援、②診療報酬への医療審査能力の強化、そしてやはり、③MS の財務管理能力強化に向け、引き続き、プロジェクトによる技術的介入を期待しています。

医療保障庁、保健共済組合、保健医療施設の能力強化に向けた取り組み

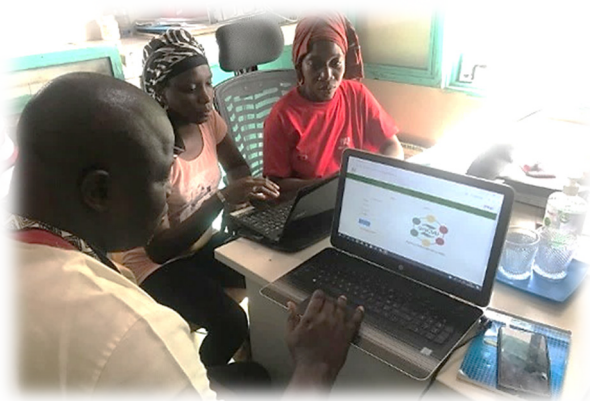
プロジェクトでは CMU プログラムを運営する主要アクターにかかる戦略レベルおよび実務レベルの能力強化にかかる研修の計画、実施、研修後のフォローアップを通じて、同プログラムの推進を支援してきました。プロジェクト終盤には、主に研修後フォローアップやスーパービジョンを実施しました。

1. GESTAM/SITFAC の研修後モニタリング

今期、プロジェクトでは医療保障庁および州支部、保健共済組合県連合（UDMS）とともに、GESTAM（MS 医療保険管理システム）、SITFAC（医療機関向け診療報酬請求情報システム）両プラットフォームの研修後モニタリングを実施しました。両プラットフォームのエンドユーザーに対する、初のモニタリング評価となった本活動は、プロジェクト対象 3 県で実施され、特に訪問先での両プラットフォーム活用の程度・頻度と合わせて、ユーザーが気づいたプラットフォーム上の制約を確認するものとなりました。本モニタリングを通じて確認された内容は医療保障庁にもフィードバックされ、GESTAM/SITFAC の今後の全国展開を見据え、システム改良に役立てられます。

モニタリング中には、GESTAM/SITFAC それぞれに顕著となった技術的問題に対して、その場で解決策を提供するとともに、プラットフォームの使い方についてエンドユーザーそれぞれの能力や気づきにに応じたフォローアップを行うことで、ユーザーの能力定着を図る活動にもなりました。

一方、プロジェクトでは MS への GESTAM 研修後、各 MS による受益者データの GESTAM への入力を支援してきました。GESTAM 上で受益者情報をアップデートすることで、SITFAC による診療報酬の電子請求から支払いまでの手続きを円滑化することが狙いでした。GESTAM および SITFAC 両プラットフォームが相補的に使用されるには、GESTAM 上の受益者データを最新のものに保てるよう、継続的にモニタリングすることが肝要になります。



GESTAM 運用にかかるモニタリング

2. 無料医療制度(IG)診療報酬請求処理にかかる州支部職員に対するスーパービジョン



IG にかかる診療報酬関連手続きのスーパービジョン

2019 年の医療保障庁再編後、無料医療制度（IG）にかかる診療報酬請求への審査業務は、同庁州支部の財務担当者（RAF）が担当することとなりました。

以降、複数回の研修が、RAF を含む同庁職員に対して実施されてきました。一方、そのノウハウの定着を図る研修後モニタリングの重要性も認識されていました。医療保障庁事業局はこうした現状に鑑み、プロジェクト活動の一環として、IG における診療報酬請求・審査・支払にかかる一連の手続きについて、研修後フォローアップも兼ねたスーパービジョン活動をプロジェクト対象 3 州の州支部において実施しました（2021 年 11 月）。

このスーパービジョン活動を通じて、州支部では診療報酬請求に応じた支払の整理、不適合請求に対する手続き中断通知の作成など、IG にかかる診療報酬関連手続きを円滑化すると同時に、手続き上の課題や制約について情報を蓄積、とくに医療施設からの診療報酬請求にかかる一連の手続きが遅延する要因を特定することができ、課題に対処すべくアクションプランが策定されました。

3. 保健共済組合県連合およびンブール病院間の契約関係モニタリングワークショップ

2021 年 10 月、ンブール病院およびンブール保健共済組合県連合（UDMS）間の契約関係モニタリングワークショップが開催されました。これは、特に病院関係者の同契約に関する理解を深め、コミュニティ健康保険利用時の医療サービス提供において、対応改善を図ることが目的でした。

参加者は、一次～三次医療といった診療レベルに応じた医療サービスへの保障内容について理解を深めました。また、ンブル病院およびンブル UDMS 間の契約関係を遵守する上で生じる課題について、対応策が話し合われました。

このように、プロジェクトでは保険者と医療機関の契約関係の維持・改善を支援し、コミュニティ健康保険の受益者がより良い診療サービスを楽しむことができるよう、取り組んでいます。



ンブル病院・UDMS 契約関係モニタリングワークショップ

4. ツールの作成と活用

プロジェクトでは 2021 年 6 月の研修終了後も、コミュニティ健康保険運用能力強化のためのツール作成に、研修後のフォローアップ活動の一環として取り組んできました。

SUNUCMU プロモーション動画の作成

保険料徴収や広く寄付を募るオンラインプラットフォーム SUNUCMU は開設から 2 年経った現在も、知名度が低くユーザー数が伸び悩んでいます。こうした現状を憂慮し、医療保障庁は SUNUCMU プラットフォームのプロモーション動画シリーズを作成し、一般大衆による SUNUCMU の活用を促す取り組みを始めました。

本動画シリーズでは、日頃から SUNUCMU を活用している家長や起業家、経営者、アーティストなどにより同プラット

フォームの利便性・有効性が証言されています。また、プラットフォームの機能や使い方は複数の現地語で説明されており、CMU プログラムの財政基盤の安定には、誰もが資することが可能であることを伝えています。医療保障庁の YouTube サイトでも視聴できますので、右の QR コードより、ぜひアクセスしてご覧ください。



SUNUCMU
プロモーション動画

MS 運営状況揭示ツール

プロジェクト対象県の一つ、ティエス県での MS スーパービジョンにおいて、加入者情報や保険料徴収状況、医療サービス利用実績などのデータを模造紙大の紙に記入し、事務所内に掲示して運営状況を管理している MS がいくつか確認されました。こうしたグッドプラクティスを参考に、プロジェクトでも同様のデータを一覧する MS 運営状況揭示ツールを作成し、対象県の MS に配布しました。

同ツールは 2022 年 1 月から活用される予定で、MS 運営状況の透明性、とりわけ財務管理状況改善や MS 自体の信用向上が期待されます。

MS 運営状況揭示ツール

CMU 制度の安定的な運営に向けた取り組み

1. BSF 受給者/CEC 保有者の MS 加入支援活動

コミュニティ健康保険を脆弱層に拡大していく戦略として、BSF 受給者/CEC 保有者を、MS に無料で加入者登録するという方法を採用しています。しかし、彼らの加入促進手続きはなかなか進んでいないのが現状です。その理由として、BSF 受給者/CEC 保有者の同定が困難であること、そしてこうした状況から MS としても積極的に手続きを進める意欲が少ない、ということが挙げられます。



BSF 受給者/CEC 保有者の MS 加入支援活動

かかる現状を踏まえ、2021 年 11 月、プロジェクトでは社会保障国民連帯国家委員会（DGPSN; BSF 受給者名簿を作成）および県社会活動局（CEC 保有者名簿を作成）の協力を得て、BSF/CEC 対象者の MS 加入促進支援活動を実施しました。

この活動を通じて、BSF/CEC 対象者の特定が飛躍的に改善し、MS としても彼らの加入登録を効果的に進められるようになりました。これにより、BSF/CEC 対象者の MS 加入割合も改善されると期待されます。また、今後も DGPSN、州・県社会活動局と継続的に協力し、BSF/CEC 対象者の MS 加入を進めることが効果的と言えます。

2. 持続的な財務安定性を考慮した MS 組織の再構築

MS 組織の財政基盤が持続的に安定することは、コミュニティ健康保険を効果的に実施する上で欠かせない前提条件です。このため、プロジェクトではこれまで、対象地域における MS 組織の統合・再編に向けた取り組みを支援してきました。

クンベントウム県では各関係者との 1 年にも及ぶ協議を経て、2021 年 10 月、統合に賛成した 5 つの MS により、県健康保険組合（UDAM）が発足しました。

プロジェクトではこの動きに向けて、MS 統合の妥当性にかかる啓発活動を支援してきました。一方、MS 統合に懐疑的な姿勢を見せる MS もあります。UDAM 設立は MS の持続的な財務安定性を担保する方法の一つですが、現状を踏まえ、その他の解決策も模索する必要があるでしょう。

ンバケ県においても MS 統合への取組みが進められています。例えば、隣接するコミュンに位置する MS の片方が機能しない場合、もう一方の MS に吸収合併するというものです。また、トゥーバ・モスケ・コミュンでは乱立する MS をコミュンレベルで統合し、コミュニティ健康保険そのもののサービス改善や透明性の向上に対する取組みが始まったところです。



クンベントウム県健康保険組合文書共有ワークショップ

謝辞：4 年間のプロジェクト活動を終えて

ドレール CMU プロジェクトは 2021 年 12 月末に 4 年の活動の幕を閉じます。医療保障庁をはじめ、CMU 制度推進に尽力してきた地域開発・社会国土公正省、保健社会活動省、対象地域となったティエス州、ジュルベル州、タンバクンダ州の行政関係者や MS 関係者、医療機関関係者に対し、深く感謝申し上げます。

プロジェクト実施中、私たちはたくさんの困難や制約に直面しましたが、CMU プログラムを動かしていくという一つの目標に向かって、いくつかの課題を乗り越えてきました。特に COVID-19 感染拡大によってもたらされた公衆衛生上の危機によってプロジェクトや CMU プログラムが混乱を来した

時期もありました。しかし、これまでに蓄積された経験は、ドレール CMU プロジェクト第 2 フェーズの運営にも大いに活用できると確信しています。



第 6 回合同調整委員会

プロジェクトダカール事務所

ダカール： Cité Keur Gorgui, Immeuble El Hadji Serigne Mérina Sylla -près du siège de la NSIA, au rez-de-chaussée, Dakar. (E-mail : doleel.cmu@gmail.com)

プロジェクト地方事務所

ティエス： Quartier 10^{ème} RIAOM. Villa N° 121, rue D X 44, en face UFR Santé, Thiès

ジュルベル： Rue Serigne Tacko Mbacké, Angle Avenue El Hadji Malick SY, Quartier Escalé, Diourbel

タンバクンダ： Quartier Quinzambougou de Tambacounda, en face du camp militaire Mamadou Lamine Drame